



東日本大震災関連情報



またおいで！「福島の子どもたち」

福島県須賀川市西ミニバスケットボールスポーツ少年団の一行34名が強化合宿できるよう、絵本の里活性化研究会（代表、西尾政男さん）が受け入れ、7月24日（日）～8月1日（月）の9日間、剣淵町に一時避難されました。

子どもたちの住んでいる福島県須賀川市は山あいであり、平成23年7月1日現在の人口は約7万8千人です。東日本大震災では県内でも地震の被害が大きく、同市長沼地区にある灌がい用のダム「藤沼湖」が地震で決壊し、田畑や家屋が流されたり、ミニバスケットボール少年団の有馬監督の家屋も全壊したほか、市内の家屋や事業所なども半壊や全壊などの被害を受けました。須賀川市役所も倒壊のおそれがあり、市体育館、市民センターや須賀川アリーナなど市役所業務を分散して行っています。

また、原発による放射能の心配もあります。市で簡易測定している放射線量は検出限界値（放射能が震災前より増えているか確認できる最小濃度）未満ですが、風向きなどでも変わるため、住民の不安は大きいと話されていました。



◀ 須賀川西バスケットボールスポーツ少年団
監督 有馬 善孝 さん

猪苗代湖
福島県須賀川市



市役所業務の分散などにより体育館が使用できない状況のなか、須賀川市西ミニバスケットボールスポーツ少年団を受け入れた絵本の里活性化研究会は、「練習しに来ただけでなく、子どもたちに剣淵町を知ってもらい、楽しい思い出を作ってほしい」と町内施設やアルパカ牧場・旭山動物園の見学をしてもらったり、町内のチアジュニア・柔道少年団と交流を深めました。

剣淵町での受け入れについて、子どもたちを引率している有馬監督は「子どもたちは日に日に剣淵を知り、今では剣淵が大好きです。私も町の人が温かく迎え入れてくれ、あいさつしてくれたりするところがすごく嬉しい。町のみんなが顔見知りで、家族ぐるみや町ぐるみで関わってくれる様子は、昔忘れてしまった、現代の生活に欠けているものだと感じました。」と話して下さいました。

子どもたちは滞在中、仲町の勝誓寺に自炊しながら宿泊し、朝5時に起き、体力づくりのためにアンダーパスの半分を年齢の倍だけダッシュします。その後炊事当番が朝食の準備にかかり、片付けし

た後は自主学習の時間。自分たちが持参した夏休みの宿題やドリルなど、助け合いながらまじめに取り組み、中には夏休みの宿題をすでに終えている子もいました。

その後B&G体育館で練習し、日程により半日や一日の練習を終え夕方になるとプールへ。地元の須賀川市では地震によって屋内プールが壊れてしまい、屋外プールも放射能の影響で入れなかったため、子どもたちはとても楽しんでいました。

プールを楽しんだ後は健康センターの浴場で入浴し、夕食の支度に取り掛かりますが、町内の方が好意で夕食を作ってくれたり、差し入れてくれることもありました。後片付けと自主学習が終わると、星を見に行ったりしたそうです。

子どもたちに剣淵の感想を聞くと、「人がみんな優しくて、いろんなものが楽しい。星がいっぱい見えてキレイ。緑が多くて空気がキレイ。街にゴミが落ちてなくてキレイ。」と、驚くほど好印象でした。合宿については「合宿は楽しい。みんな来てるし、ホームシックはない。炊事もみんなで分

担しているし、家でも手伝いしていたから苦にはならないけど、みんな生活しているから、次から次へとやるのがいっぱいあって、それが大変」と話していました。

気温は？と聞くと「須賀川より寒い」そうで、個人差はあるものの、朝晩は「超さみー」と話していました。

また、須賀川市と剣淵町の違いとして「人口の違い」、「台風が来ない」、「蛙の鳴き声が多い」ことや「事故が少ない」ことなどを挙げており、忙しいながらも剣淵のことをすっかり見てくれていて嬉しく思いました。

須賀川西ミニバスケット少年団の子どもたちは8月1日(月)に離町しましたが、剣淵に一時避難している間、もしかしたら福島にいる家族や友達のことを考えることもあったかもしれません。ふれ合える期間は短かったですが、私たちは子どもたちの元気な笑顔を見て、逆に励まされた気がします。

須賀川市西ミニバスケットボールスポーツ少年団の皆さん、剣淵町やここで経験したことを覚えていてね！忘れていなくても、また剣淵へ遊びに来てください。